

8月28日（水）に、全校人権研修「障がい特性を配慮した特別支援教育とは2」を実施しました。講師は、武庫川女子大学 非常勤講師 および 発達臨床心理研究所嘱託研究員の石川道子先生でした。



今回の研修は、「発達障がいの子どもへの理解と支援」「学校と医療との連携」をテーマに講義をして頂きました。

発達障がいの子どもによく見られる行動として「指示が聞けない、話が聞けない」「気持ちの切り替えが難しい」などがあり、その支援方法としては、一斉指示ではなく個別の言葉かけをして注意を話し手に向けることや、時間を意識させること、などがあることを説明して頂きました。

また、石川先生ご自身が支援学校から相談を受けて気付かれた点についてのお話もお聞きすることができました。「取り組んだことは必ず成功で終わるようにする」「集団でできない時には個別対応に戻る」など、日頃の指導で参考にするべき内容ばかりでした。

その他にも、発達障がいの子どもへの支援には、支援者自身の価値観を見直すことが必要であるということでした。「～すべき」「～でなければならない」といった一方的な考えを持つのではなく、子どもの行為を尊重し、そういう考え方もあるのだと認め、子どもに寄り添った支援のあり方を考えていくことが重要であることがわかりました。

石川先生のお話は今すぐにでも実践すべきだと思えるものばかりでした。今後も発達障がいへの理解を深め、子どもたちへの支援に繋げていきたいと思えます。